

第4回 市民会館の整備検討懇談会 議事録

日時：令和元年12月16日（月）午後2時～午後4時

会場：名古屋市役所本庁舎5階 正庁

1 進行

- (1) 開会
- (2) 傍聴要項説明
- (3) 資料説明
- (4) 質疑応答及び意見交換
- (5) 閉会

2 質疑応答及び意見交換

黒田座長

ご説明ありがとうございました。ただいま事務局よりご説明がありました内容につきまして、委員の皆様からご意見・ご質問を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

林委員

小さなことで恐縮ですが、議事説明資料の14ページ「その他諸室・共用部」の「練習施設」に関するお話を受けて、名フィルの山元さんとバレエ団の松岡さんにお聞きしたいです。「練習」といっても「日々の練習」、「本番前のリハーサル」、「その中間にあたるもの」の3つに分かれると思いますが、皆様はそれぞれどのようなイメージを持っていच्छやいますか。「日々の練習」の場合は大ホールと遮断する必要がある、一方で「本番前のリハーサル」ですと大ホールと連動する必要があります。動線、遮音、セキュリティ等は人件費とも繋がってきますので、利用されている方々が「練習」のイメージをどのように持っていच्छやるかお伺いしたいです。

山元委員

まず現在の市民会館に関して言えば、大ホールと中ホールの音遮断が完璧ではありません。中ホールで大規模な振動を伴う公演が行われると、大ホールに支障が出てしまい、特にクラシックのコンサートは両立することができません。まずはホール同士の音の問題は最低限解決すべきことだと考えています。

リハーサルと本番の環境という点では、当然ながら音の遮音は考えていけないと思っています。利用側からするとリハ室の規模が増えると良いと思いますが、今後限られたスペースの中で実際にどう建築ができるのか、名古屋市内の需要を十分にカバーできるリハーサル・スペースを設ける必要があると考えています。

林委員

個室の練習室はあまり想定していないということでしょうか。

山元委員

名古屋フィルハーモニーという立場から申し上げれば、新しい劇場には“オーケストラが住む劇場”といったように活動を広げていきたいと考えているため、可能であればオーケストラの練習室についても量を増やしていただきたいと思っています。

黒田座長

では松岡委員、お願い致します。

松岡委員

舞踊に関しては、本番の日はリハ室を使うということはありません。逆に言えば、舞台上でリハーサルをして舞台に慣れることが必要であり、リハーサル室については照明合わせ等の際に普段の自前のスタジオでは狭いという理由で使用します。

しかし、現市民会館のリハーサル室は舞台の大きさに対してとても狭いので、あまりリハーサルの意味がなくなってしまうというのが現状です。リハーサル室はある程度舞台と同じ大きさが必要です。また、外部から人が入るため、セキュリティは強化していただきたいと思っています。

リハーサル室の使用もとても激戦化しているため、大ホールのためのリハ室、中ホールのためのリハ室、小ホールのためのリハ室、というようにそれぞれのホールにリハ室があることが理想だと思います。

山元委員

先週末に愛知県芸術劇場のコンサートホールで第九の公演がありました。これまで名フィルでは、第九の演奏会を市民会館で行っており、合唱団の控室として地下のリハ室を使用していました。昨年より会場が愛知県芸術劇場になりましたが、合唱団の控室がなく、とても困ったという事がありました。愛知県芸術劇場の場合、大リハ室、中リハ室が地下にあります。必ずしもコンサートホールを利用する人が優先的に使えるわけではないため、合唱団のための控室は用意できませんでした。リハーサル室は、バレエではウォーミングアップの場として必要であり、コンサートにおいても大規模な公演では300人規模の合唱団が出演することもあり、着替えや休憩のスペースとして必要になります。愛知県芸術劇場では、リハーサル室は地下に、コンサートホールが5階にあり、コンサートホールとの連携が取りにくいという部分がありますので、リハ室の位置関係についても非常に重要であると考えています。

黒田座長

今のご意見を踏まえると、ホール以外の部分についてもキャパシティが必要であり、相当規模の大きな施設になると考えられます。他の委員の方、何かございますか。

永井委員

今のお話を受けて、リハーサル室が舞台と同じ規模であることは必須条件かと思いました。私が以前関わっていた知立市文化会館や現在関わっている静岡市清水文化会館（マリナート）では、リハーサル室が本舞台と同じスペースを取っており、そういったことがサービスにつな

がり、利用率にも関わると考えています。また、多様な活動をバックアップし、利用者を増やすためには、スペースとの連動が必要だと考えています。これに関連して、サービス向上やリハーサル室のスピーディな貸出等の調整は、本来劇場に必要な専門的人材が行うことであり、様々な文化芸術団体が活動できる環境を整えるという役割があります。今回の資料の中では「専門的人材の配置」について記述が少ないように感じますが、「専門的人材の配置」というのは、専門家がやるようなものだけを推し進めるというわけではなく、皆さんの利用環境を整える、あるいは利用全体を把握する、また個々の団体がこれから文化芸術団体として発展していけるようマネジメントするということだと考えています。その点について、ご説明いただけそうでしたら、お願いできればと思います。

事務局（文化振興室）

今回の資料の中では、運営手法や組織関係については、記載しておりません。今回はハードに近い部分を中心に資料を作成させていただいております。専門人材を活用することや、大きな施設を運営していく手法や組織は、根幹にあたる非常に重要部分にもなりますので、今後しっかり作り上げていく必要があると考えています。

黒田座長

ありがとうございます。実務的なことについて話題に出ましたが、その点に関して名古屋市文化振興事業団の岡田事業部長からご意見をお願い致します。

岡田事業部長

専門的人材といっても非常に幅広いと思っています。事業団では職員が事業を行い、管理する上でレベルアップができるよう、アートマネージャー制度を採用しております。職員のレベルアップももちろんですが、文化芸術に関して幅広い知識を持った職員の育成のために行っております。

専門的人材については、例えば図書館には司書、美術館にはキュレーター、テレビ局にはプロデューサーといったようにそれぞれ専門人材が配置されていますが、劇場にはありません。私はそういった肩書き・名称が人材を育てていくものと考えておりますので、このような育成制度を充実させていきたいと考えています。

黒田座長

ありがとうございます。クラシック関係のご意見はいただきましたが、遠藤委員はいかがでしょうか。

遠藤委員

今回4回目の懇談会ということで参加させていただいていますが、やっと骨格がみえてきたかなと実感しております。ただ頭の中に浮かんだのは、大ホール、中ホール、小ホールはどのスペースにどのようにできるのか、使い易いように設置されることが可能なのか、どのように実現するのか、横に作るのか、上に積み重なるのか、下に掘っていくのか等の懸念点でした。もう一つのコンセプトである憩いの場所がどこにどのようにできるのか、今の市民会館の広場

の部分のスペースは潰れてしまっていていいのか等を考えると、ホール自体がとても窮屈になってしまうように感じます。その場合「3つのホールが必要なのか」というところまで戻るべきなのか、現実問題があると感じています。

黒田座長

初回にもありましたが、立地については今後検討する予定となっています。本日のところのご要望があれば市に伝えていただければと思います。

ポピュラー音楽の方からみて、先程のリハーサル室の利用についてはいかがでしょうか。

遠藤委員

ポピュラー音楽では、リハ室を使うことは3年に1回程度です。アーティストが旅の途中で少し練習したい場合や、名古屋だけの特別なコンサートのための練習場所を探している場合にしか利用することがないため、現施設でも十分物足りており、さらに必要ということはありません。

黒田座長

わかりました。西川委員はいかがですか。

西川委員

専門家から申しますと、中ホールについて、本花道をいれるという前提で進めていただいていることを感謝しています。またモデルとして、穂の国とよはし芸術劇場プラットを例に出していただいておりますが、客席に傾斜があり鳥屋口から花道が始まるという形態はもともと愛知県芸術劇場にもありました。しかし、鳥屋口の背が高すぎて死角が多くできてしまうため、ほとんどの場合が仮花道を使用し、本花道は1回程度しか使われることがなく、なくなってしまったという経緯があります。

市民会館に関して検討する際も、例えば、穂の国とよはし芸術劇場プラットでは利用があるのか、問題はないか等、きちんと確認していただきたいと思います。現市民会館は、日本で1番花道が長い劇場として有名でしたが、鳥屋口を建設するのにどの程度コストがかかるのか等調べておいていただきたいです。

また、回り舞台、迫りについて、盆は歌舞伎等で使われるものですが、邦楽の演奏会で使われる場合もあります。可動迫りについても特殊なものではありますが、花道にはすっぽんという迫りが必要になります。

今のお考えですと、プロもアマチュアも市民も使う劇場ということで、講演会等は公会堂を使うというすみ分けがされておりますが、それでもなお大中小のホールがあり、リハーサル室があり、市民が使うことも考慮していると思いますし、工房があり憩いがあることをイメージすると、あるときは長久手のような劇場で、あるときは可児市のような劇場で、そしてあるときはプロフェッショナル向けの劇場が浮かんできます。これを全て掛け合わせると、予算も膨大になり、敷地も収まり切りません。これらの問題を解決するために、実際に仮の図面を書く等の実証を、計画の中に入れてあるのか、また最終的な判断を誰が行うのか（プロフェッショナル向けなのか、より市民に寄り添ったものなのか）等、選択の時期が必ず訪れると思いますので、そちらに対するプランをお聞かせいただきたいと思います。

黒田座長

ありがとうございます。来年度の話にもなろうかと思しますので、答えられる範囲でお願い致します。

事務局（文化振興室）

これまでの懇談会ではあるべき姿について、夢を語るように考えて参りました。これからは実際に実施していくにあたり現実問題と照らし合わせて具体的な内容を考えていきます。

まずは、場所の制約は物理的な問題としてあると思っています。現設置場所である金山を整備地区としては考えていますが、隣接地の古沢公園についても公園機能を残しながら、活用できないかと考えております。併せて、住宅都市局の方でもまちづくりの観点でどのような工夫ができるのか、同時並行で検討を進めております。平面で十分なスペースがない中で、縦に積むのか等の手法も含めて、様々な工夫が必要だと考えております。そういった部分についても、検討を進めていきながら具体的にどの程度スペースが確保できて、整備手法等に関してもどこまで現実的に可能か、同時並行で進めていく必要があると考えております。

現時点では我々の方で「答え」を持合わせているわけではありませんが、これまでの懇談会を通して頂戴した意見を、全てといかなくとも反映させることができればと思っております。制約の中で諦めざるを得ない箇所も出てくるかとは思っておりますが、委員の皆様や市民の皆様のご意見を頂戴しながらできる限りの形で進めていきたいと思っております。

黒田座長

ありがとうございました。これから詰めるべきことが山ほどあるということですね。オブザーバーの住宅都市局の竹田都市整備部長はいかがでしょう。

竹田都市整備部長

住宅都市局としては、金山の中で市民会館が核としてどのような役割を果たすのかという視点で考えております。劇場がまちの賑わいになること等、市民会館が今後金山の中でどのような役割を担うのか、連携を図りながら検討していかなければならないと考えております。先程もこの敷地内に建物が建てられるのか、現実的なのかというお話がありましたが、まちづくりとしては金山の古沢公園の街区、市民会館の街区、金山駅前の街区等、エリアのまちづくりとして考えており、現段階では古沢公園等の街区を先行的に進め、順に南の方に移っていくように考えております。まだ検討段階ですので、本日はお示しすることはできませんが、今後計画を進める段階では連携を取って進めていくことが必要だと考えています。

また、整備に関しましては「民間活力」ということが言われておりますので、民間の力を借りるということになると、一定の条件を設けて公募する例が多くあります。その際にどの程度条件を絞って公募するか、皆さんの意見が出る中で、すり合わせをしながら進めていくようになるかと思っております。

黒田座長

ありがとうございました。ハード面についてご意見を頂戴しましたが、当初より中身だけでなく、外観という意味でも重要になってくるだろうという視点もありました。また、リハ室も含めたハード面の要望をお聞きしておりますが、山本委員はいかがですか。

山本委員

今回資料をいただきまして、大・中・第3の新しいホールができたとしたら、一度に借りて「よしもと祭り」をやりたいと思いました。

リハーサル室についてですが、私自身、リハーサル室は何のために使うのかいつも疑問に思っていました。なぜかという、吉本新喜劇はほとんどリハーサルを行いません。例えば本番の日、朝9時に技術スタッフが入り、セットを建て、11時頃に演者が入り、そこで舞台上で演じながら稽古を行います。リハーサル室があればあつたで多くの人が休憩する、憩う場所となり良いかとは思いますが、本来リハーサル室は、お芝居をやるにあたって公演前に劇場（舞台）が使えない際に、舞台と同じ規模でリハーサルができる場だと便利だと思います。予約の制度に関しても、当日はもちろん、前々日から借りられる状況にしておく、劇団等は喜ぶのではと思います。吉本に関して言えば、若手芸人ライブ等だとリハーサルが3～4時間必要ですが、それも舞台を使って行うため、我々の中ではリハーサル室を当日使うということはありません。

また、個人的な意見ですが、街を歩いていると夕方ごろ、青少年がビルの前で踊っているのを見かけます。市民会館の前でも踊ったりしており、ダンスの練習の場が少ないと思っています。そういった方々に対してリハーサル室等を解放し、若い人たちを取り込んでも良いかと思っています。

また話は変わりますが、なんばグランド花月、ルミネ座よしもとの劇場等では劇場内で飲食可能となっています。「新しい劇場に市民の憩いの場を作る」という観点では、設備をきれいに保って必ず現状復帰をさせるという条件の下であれば、大衆に対して「ご飯を食べながら観る」ということが可能でも良いのではないかと思います。

黒田座長

ダンスに関しては、アメリカでも海外沿いにそういった場所を整備する例等がありますが、日本はなかなか認めていない印象です。また飲食に関しては、歌舞伎、映画館等では可能ですが、新しい劇場についてもケースバイケースでご検討いただければと思います。

それでは工藤委員お願い致します。

工藤委員

第1回の懇談会から名古屋の劇場不足について申し上げており、特に演劇に関しては圧倒的に劇場不足です。名古屋の現在の飽和状態を考えると今回3つ目のホールができることはとても良いと思いました。第3のホールのコンセプトについて拝見すると、なんでもできそうな期待と、どっちつかずになりそうな危険性もありますので、具体化していく中で技術的なことも含めて専門家の方々と検討されていけば良いのではと思っています。資料を見た限りでは、名古屋ではじめての本格的な演劇劇場になるのではないかと期待しています。つまり、東京のシアターコクーンや世田谷パブリックシアター等で創られた舞台がそのまま観られるようになるのではないかと期待しています。

併せて可変的なホールにすることで、例えばセンターステージでの使用や小さい使い方もできると考えています。地域の要望からすると200席等で利用したいという声もあり、第3のホールは面白く使っていただけるのではないかと考えています。

また運営のことになりますが、芸術創造センターや青少年文化センターとの連携について、現在でも運営主体が異なりますので懸念点はありますが、芸術創造センターは創造のための施設、青少年文化センターは青少年のための施設であるのに対し、市民会館は全ての人に開かれているという形になると思っています。その中で既存の文化施設との調整等を行うプロデューサー的な人材が必要だと思いますし、数年ごとに運営者が異なることは名古屋市全体の有機的な連携も難しくなってしまうため、長期的展望を持った運営主体が必要なのではないかと考えています。

黒田座長

ありがとうございます。何か事務局からありますか。

事務局（文化振興室）

貴重なご意見をいただきまして、是非演劇にも使いやすいホールにしていけたらと考えています。運営主体については、これ以降の懇談会でご議論いただけるように考えております。指定管理者制度の制度上の問題は前提として、その中で民間と連携しながらどのように進めていくのかも重要だと考えております。またご意見を次回以降頂戴できればと思っております。

黒田座長

県内の小規模ホールの方々と話す機会がありましたが、指定管理者制度は致命的だという意見を聞いたことがあります。指定管理について携わったこともあります、当初と異なり緩い形態の中で選択肢も増えてきていますので、工夫のしようがあると思います。是非そのことについても検討される際に考慮していただければと思います。

それでは高北委員お願いします。

高北委員

このような話をしていると、予算的にどうなのか、スペース的なことはどうなのか、法規はどうかという議論になってしましますが、今の段階では気を遣う必要はないと思います。「理想を語っておいて予算が足りずに小さくなるくらいなら、最初から理想を語るな」というような流れではないと思います。そこを突破していくような力を出していけないといけないと思っています。劇場を使う人、演じる人がいらっしゃるわけですから、その立場からご意見をいただければ良いと思いますし、皆さんのご意見を沢山出していただいた方が日本中どこにもないユニークなものを作り出すために重要だと思っています。

山本委員とは反する意見となってしましますが、街なかのストリートで踊っている子どもたちは、金山の街の中で踊っていることが重要だと思います。その中で「劇場の広場で踊っている子が多い」、「広場で踊っていた子がステージでも踊っている」というように、劇場と街のエッジが曖昧になっていく、或いは劇場性が広がっていくというようなことが重要だと思っており、街としての劇場のあり方だと考えています。

黒田座長

新しい金山のシンボルとなり、まちに溶け込んだ劇場となることが重要ですね。月東委員はいかがでしょうか。

月東委員

街角でのダンスについて、中区役所では夕方になると区役所のガラスをミラーにして、若者たちがガラスに映った姿を見ながら練習しており、ダンスの聖地のようになっています。区役所時代、どのように取り込むかを考えたことはありました。市民会館でもそのような状況ができ、「いつかは中のステージに立ってやる」という思いで若者たちが活動することも面白いと思いました。

今回の資料では、各ホールに関して多目的な部分を保ちつつ、それぞれ主目的を設置しておりますが、具体的な舞台装置等を検討する際にも一定の方向性を定めた中で、より議論し易いように、このような切り口で提示致しました。次回以降に設置条件等についても検討していきたいと思っておりますので、いただいた意見をもとに検討を進めていけたらと思っております。

黒田座長

ありがとうございました。ほかにご質問等、ありますか。

林委員

高北さんがおっしゃった「街と劇場がシークエンスになる」というのが良いなと思いました。議事説明資料の1ページのミッションについて、「文化芸術の裾野拡大（劇場文化の浸透）」となっており、文化芸術というと舞台芸術以外のものも含むと思いますのでかなり広いですが、劇場文化＝箱の中の話なので、その中間の「舞台芸術」という言葉があると良いと思っています。

山本委員、遠藤委員、工藤委員にそれぞれ質問ですが、16ページの第3のホールについて、「インバウンド向けのナイトタイムエコノミーを想定したノンバーバルなエンターテインメントの誘発」とありますが、インバウンドを意識してコンテンツを開発するということだと理解しました。潜在的需要を発掘するということですので、市場原理に乗っかるまで時間とお金が必要になってきます。最近の事例でいうと、明治座が夜間の公演をやっておりましたが、このようにコンテンツ作ってレパートリー化し、每晚やっていくとなると一種の長期利用になる中で、山本さんには実際にそのようなコンテンツは作れるのかという事を、遠藤さんにはインバウンドを意識して主催者はイベントをやるものなのか、工藤さんには演劇利用をする際に夜間を使用できないとなることをどのように考えていらっしゃるかお伺いできればと思います。

山本委員

インバウンド向けのノンバーバルな演目ということについては、吉本では大阪城公園の中にCOOL JAPAN OSAKAという劇場があり、ノンバーバルのインバウンド向けコンテンツを作りました。ただ、人通りが多いところでもないので集客に苦戦しております。また、外国のショーを持ってきて上演することもあります。例えば「スラバのスノーショー」という場内に雪を降らせるノンバーバルコンテンツがあります。このように、コンテンツとしてはありますが、なかなか外国から来た方が見に来るかどうかなと言われると苦戦すると思います。

遠藤委員

インバウンド向けに何かコンテンツを持ってきたことは一切ありません。個人的感覚ではありますが、名古屋でエンターテインメントを観たい外国人観光客がどの程度いるのかと考えています。昔は、観光客は暇だという発想がありましたが、個人的には観光客は暇ではないと思っています。また、インバウンドの客が名古屋に泊まる割合はとても低いと聞いたこともあります。こういった事を考えると、名古屋でインバウンド向けについて意識して何かを行うことはありません。

工藤委員

インバウンド向けのコンテンツが長期利用を行い、演劇が借りられないという事については一言で言うと、あまり良くないと思います。インバウンドのコンテンツについては、例えば欧米諸国では公演の開演は 20 時が当たり前ですが、日本においては 19 時が当たり前で、インバウンドの方々は芝居を観れないという状況です。例えば、19 時開演、20 時開演を普通にするのであれば、公共施設の閉館時間などを改定する必要がある、簡単ではないという気がしています。一方でインバウンドに求められているものが伝統芸能等であるならば、夜に限定しなくても良いと考えています。実際にやるのであれば、長い期間をかけていく必要があるかと思っています。

黒田座長

ありがとうございます。MICE 目的の来訪者については、名古屋は少ないとは言われておりますが、市の外郭団体がコンシェルジュ的な立ち位置で日本独自のコンテンツを紹介する制度は整っています。そういったコンテンツは来訪者が宿泊しているホテルの会場で行う等の場合が多いです。名古屋は全体的に早く閉まってしまう傾向にあるため、ナイトライフを充実させていく必要はあると感じています。

何か他の点でも結構ですので何かご意見ありますでしょうか。

西川委員

大きい夢をみて、大きく名古屋が変わって欲しいと思っています。先ほどの質問の意図は、スケールダウンありきの計画ではなく、どのようにしたらスケールアップできるかについての議論も計画の中に入れられたらどうか、という意図での質問でした。

私自身は「名古屋踊り」という興行をやっておりますが、なぜそれをできるか考えると私 1 人が決定権を持っているからだと思っています。複数人で意見を出し合うとなかなか着地点が見つからないことがあります。行政ですと、中々 1 人が独断で決定することはできませんが、それならば満遍なくやるというのもアリだとは思いますが、また、台中国家歌劇院（台湾）のように大きなモニュメントを作ったプロジェクト等から学び、突出したものを作ってほしいと思っています。

インバウンドのためのコンテンツについては、京都の「ギア」という演目では 10 年かかりコンテンツを確立しています。また最近では、ロボットレストラン、バーレスク等がありますが、途中でやめてしまう公演もあります。民間企業が主体で行っても難しい部分があると感じています。

ナイトタイムエコノミーについては、名古屋では料亭の「河文」が挙げられると思います。「河文」は平日をカルチャーナイトとして 4000 円で芸者さんを観られるもので、22 時から始まります。小さい規模の 10-20 人程度で 100 カ国近くの国の方々が来ています。これもお店の一判断だからこそできることだと思います。

金山が街として魅力を高めるためには、全ての部分で魅力を高めるというよりは、突出した魅力が必要だと考えています。行政ではなかなか難しい部分もありますが、魅力ある街から学び、名古屋がこの令和の時代に大きく変化して人々から羨望を浴びることを願っています。

永井委員

皆様のご意見を伺っていて、考えを新たにすることがあります。バレエ、音楽、貸館としてプロデュースされる方の利用が分かり、その中で名古屋を中心として、事例にある他のホール以上にプロデュースする能力が必要になるかと思っています。皆様のご意見や夢があってこの大・中・第3のホールを実現させるためには、専門性を持ったプロデューサー的存在があることによって、様々な人々の利用を引っ張っていくことが必要だと感じています。専門人材というのは、舞台技術分野の専門性でもありますし、企画や制作を一から行える専門性についても同様です。上手く運営している劇場では、専門的、クリエイティブな作品のプロデュースと貸館をバランスよくやっており、そのようなプロデューサーが必要だと思います。

また、「劇場文化」という言葉については、ハコを超えていると感じました。先ほどお話にありましたが、食べながら芝居を観る、休憩時間にお弁当を食べて後半を観るなどの楽しみもあるので、そういったことも含めてプロデュースしていく専門家が重要だと考えています。

また、「市民が気軽に訪れる劇場」という点では、ストリートや外で演奏をしている人たちが劇場の中で演奏を行うことに対するモチベーションを上げられるような、日常的なプロデュース方法が大事な点だと考えています。練習場所や会議室等で様々な人々が作業する状況が日常的に見える環境にあることが大事であり、その日常性が劇場内の舞台と客席の非日常空間を高めるかと思っています。

これらは今後の話になるかと思いますが、客席の形や層についても、客席数に見合ってお互いの顔が見えるような臨場感のある空間が求められると思います。最近ではお互いの顔が見える劇場が増えてきており、そういった劇場の特性をプログラムにつなげることができる専門家が重要なのではないかと考えています。

黒田座長

ありがとうございます。他にご意見ございますか。

山元委員

コンセプトの部分では例えば大ホールは「聴くホール」とする等、具体的に分かり易くなり、理解し易いキーワードが出てきた印象があります。また、キャパシティに関しても他のホールとのすみ分けが重要になってきますが、良い規模の数字(席数)が記載されていると思います。

新しい劇場は色々な団体が使えるホールでないといけないと思っています。今までの利用を排除するホールであってはいけませんし、そのための設備を整えたホールを目指す必要があると考えています。

大ホールでは音響反射版について書かれていますが、今の市民会館では音響反射板が上部に吊り下がっていて、演劇等の際に照明バトンが使いにくく、音響反射板の設置にも時間がかかります。設備関係は日々進歩しているため、できるだけ良い設備を揃え、あらゆるジャンルの方々が使えるホールになると良いと思います。

遠藤委員

我々が使っているジャンルと我々以外のジャンルの大きな違いは、ポピュラー音楽の公演の多くは立って観るということがほとんどであり、そこを考慮したホールにしていきたいと考えています。座って観る公演とは構造が 180 度異なりますが、片方に舵をきくと、片方が使いにくい状況になってしまいます。昔の会館は、基本的には座ってみることを前提に設計されていますが、「みんなが使える」という事でいえば、立って観る観客も前提とした設計になっている、ということも念頭に置いていただければと思います。

黒田座長

ありがとうございます。他にないようですので、事務局より説明がありましたらお願い致します。

事務局（文化振興室）

インバウンドのためのコンテンツについてご意見がありましたが、例えば名古屋ではやっとかめ文化祭を主催しております。その中である時私は能楽堂の夜の公演の受付をしていました。狂言のプログラムでは、英語のイヤホンガイドの配布を行っており、たまたま名古屋城に來た外国人の方々が來場され、驚いたという経験があります。海外のお客様がいらっしゃることはまだ少ないかもしれませんが、そういった設えやプログラムを用意しておく必要はあると感じました。

また、スタンディングでのコンサートについて、例えばドームコンサート等では前の人が立っていると必然的に立たなければいけなくなりますので、そういったことについても設計段階から考慮すべきだと思います。そういった点については今後検討を進めていく中で可能な限りご意見を反映させていければと思っています。

今後のスケジュールについては、議事説明資料の 33 ページに記載がございます。今年度の懇談会は 4 回目で区切りをつけさせていただき、来年度に 5 回、6 回を実施させていただければと考えております。5 回目の議題については、新たな劇場の立地場所、主要駅からの來場者動線のあり方はどうあるべきか。また、管理運営主体はどのような形で設置したら良いのか、あるいは専門人材はどのような役割を担うべきなのか、ということを議論できればと考えております。また、6 回目には、そういったことを総合的にまとめた基本構想の素案のような形で、事務局としての考えを示し、意見交換をお願いできればと思っています。

その後の新たな劇場整備に向けた計画策定の段取りについては、予算等の状況を鑑みる必要があるため、現時点での想定になりますが、まずは基本構想をしっかりと策定し、そのうえで、新たな劇場の整備に必要な諸条件を具体的に整理し、施設面・管理運営面でどのような条件で整備をしていくのか、あるいは整備主体をどのようにするのかということを基本計画の中で作っていきたいと考えています。また、これらを踏まえて、整備にかかる要求水準を含む整備計画の策定を想定しております。以上です。

黒田座長

ありがとうございます。金山周辺の利害関係者もおられますし、今後、全市的な調整も事務局として必要になってくるかと思います。委員の皆さまにおかれましては、お忙しいところ、市民会館の整備検討懇談会にご出席をいただき、誠にありがとうございました。来年度につきましても、引き続きお力添えをいただければ幸いです。

以上で本日の懇談会を終了します。本日はありがとうございました。